

# 知識構成型ジグソー法を用いた世界史単元開発

—学習者の状況に応じた資料選択、解釈に注目して—

学籍番号 219316

氏名 堀 凌

主指導教員 峯 明秀

副指導教員 糸井川 孝之

## 1. 問題意識

2016年の中央教育審議会(答申)では、これからの社会を生きるために必要な「生きる力」の必要な資質・能力を育むことを目指すための指導方法として、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ授業の改善を図るように促した。しかし、高等学校では、知識伝達型の授業にとどまっている状況である。寺尾(2013)は社会科の歴史学習でも同じような課題を抱えていると指摘する。筆者は、これまでの実習での経験から、この状況を変えられないものだろうか、この状況を変えるアクティブ・ラーニングを実現する方法があるだろうか。本研究では、これらの問題意識を原点としている。この問いについて筆者が実際に実践と振り返りを行うことで、実習校の教職員の方々への世界史の授業開発の示唆となり得るだろう。

## 2. 研究主題

本研究の目的は、知識構成ジグソー法を用いた世界史の単元開発を開発することである。そして、この方法を用いた授業を行う上での、課題点を示すことである。

アクティブ・ラーニングは、①授業に書く・話す・発表するなどの活動を伴う学習形態を導入して、講義一辺倒の授業を脱却すること、②学習を個人的なものから他者や集団を組み込み、協働的なもの、社会的なものへと拡張していくこと、以上の2点を求める。社会構成主義は、知識は客観的なものではなく、知識は人々によって社会的に構築されるものであるとして、知識形成ではコミュニケーションの媒介となる言語や人々が背景に持っている社会的・文化的コンテクストの役割を重視する。また、知識形成の過程では人々間の対話的・共同的な探究活動を重視している。このことをふまえると、社会構成主義はアクティブ・ラーニングに応えるものである。

東京大学COREFは、社会構成主義に基づいた知識構成ジグソー法と呼ばれる協同学習を開発した。この方法を用いた授業づくりの実践研究で積み重ねてきたことを整理して、共有することを目的としたハンドブックを作成した。ハンドブックには、教職員の方々が行った授業実践例を記載している。しかし、高等学校世界史における授業実践の報告は少ない。また、この方法を用いた授業を行う上で、授業者に着目した分析を行い、課題を指摘する研究は少ない。

以上のことをふまえると、知識構成ジグソー法を用いて、どのような世界史の単元を開発

できるだろうか。また、この方法を用いた授業では、どのような課題があり、その課題を改善するにはどのような意識を持ち、単元を開発すべきだろうか。

### 3. 研究の方法

本研究では、知識構成ジグソー法を用いた世界史の授業を実践し、学習者のワークシートの記述から分析を行った。発展課題実習Ⅰでは、まず、基本学校実習の授業実践の反省や授業観察での学習者の実態の分析を行い、この方法を用いた授業を実習校で行う上で学習者の課題となりうる部分を明らかとした。次に、課題の改善に着目しながら授業の実践を行った。そして、授業の実践の振り返りを行い、新たな課題を明らかとした。発展課題実習Ⅱでは、まず、発展課題実習Ⅰで明らかとなった課題の改善に着目しながら授業の実践を行った。そして、授業の実践の振り返りを行い、実習全体での課題を明らかにした。

### 4. 本研究の意義と特質

本研究の意義と特質は以下の2つにまとめられる。

1つ目は、学習者の実態をふまえながら知識構成ジグソー法を用いて世界史の単元を開発することができたことである。発展課題実習Ⅰでは、授業者が単元を通して身につけて欲しい資質・能力を考えることに加え、学習者が自分事として捉えられるような発問作りや資料選択を行うべきだという課題を認識することができた。発展課題実習Ⅱでは、発展課題実習Ⅰでの課題を意識しながら、発問や発問に対して資料を設定する際に、学習者に寄り添うこと目指した。

2つ目は、知識構成ジグソー法を用いた授業での課題を示すことができた。課題として、単元を通しての問いの構造図が作成できていない状況で、知識構成ジグソー法を用いると、学習者が得られる学びは少ないことが明らかとなった。また、学習する単元において、単元目標を達成するために適切なアクティブ・ラーニングとしての手段であるか考える必要がある。そして、この方法を実践するには、知識伝達型の授業に比べて、時間の確保が必要となることである。これらの課題をふまえ、学習者が単元を通して学ぶべき目標を設定し、その目標を達成するために問いの構造図を図り、扱う内容の取捨選択をしていくことが必要となる。そして、目標を達成するための手段として、知識構成ジグソー法は適切であるか考えることが必要であることを明らかとした。

これらの本研究の意義と特質は、アクティブ・ラーニングを用いた世界史の単元開発に貢献できるだろう。